

(注) 本報は、主に現地紙における報道を当館限りで日本語でまとめたものです。記事の中の客観的事実は日本政府や現地政府の公式見解と異なる場合がありますが、当館では文責は負いかねますのでご了承ください。

ベナン月報(2021年7月)

【内政】

- 4月の大統領選で野党から副大統領候補として出馬したイレネ・アゴサは、6月12日新党 Restaurer la confiance を結党し、13日、次回の大統領選で勝利するための方針についてメディアに語った。(14日、La Nation 紙)

【外政】

- 15日、在ベナン中国大使館は、中国共産党結党100周年記念に係る記者会見を開催し、ペナン同国大使は中国の発展の秘訣について語った。(16日、La Nation 紙)

【治安・保健】

- 26日、ベナン政府はジョンソン&ジョンソン製の新型コロナウイルスワクチン約30万回分を受領した。(27日、La Nation 紙)

【経済】

- 経済・財務省による2022～2024年経済・財政計画書が公表され、同期間における国家予算は平均9.7%の上昇が見込まれていることが明らかとなった。(7日、La Nation 紙)
- 13日、草の根無償資金協力「グラスエ市井戸3基整備計画」の引渡式が実施され、近藤茂駐ベナン日本国臨時代理大使が出席した。(14日、L'Économiste 紙)
- 15日、コトヌ自治港第5ターミナル建設計画に係る契約が、ティス同港総裁と中国港湾エンジニアリング会社との間で締結された。(21日、L'Économiste 紙)

【文化・その他】

- 1日、中国の支援により改修された総合運動競技場「マシュー・ケレク・スタジアム」の完工・贈与式が、ペナン駐ベナン中国大使、アベノンシ外務・協力大臣、ホメキ・スポーツ大臣、トナト生活環境・持続的開発大臣の出席の下、開催された。(2日、La Nation 紙)
- 東京オリンピックへのベナン人選手の出場につき、4競技(陸上(7種競技、100m、800m)、柔道、水泳、ボート2名)7名が出場することが決定した(男子4名、女子3名)。(6日、La Nation 紙)
- 22日、近藤茂駐ベナン日本国臨時代理大使は、東京パラリンピックに参加するベナン代表団の壮行会を開催した。(23日、L'Économiste 紙)

※下記内容は、La Nation 紙、Le Matinal 紙、L'Événement Précis 紙、L'Économiste 紙および Le Matin Libre 紙の記事を元に記載したものです。

【内政】

- ・ 10日、高等教育開発戦略セミナーが開催され、タロン大統領が登壇し、教育、研究、イノベーションを国の発展の基礎とする方針を述べた。(12日、La Nation 紙)
- ・ 4月の大統領選で野党から副大統領候補として出馬したイレネ・アゴサは、6月12日新党 Restaurer la confiance を結党し、13日、次回の大統領選で勝利するための方針についてメディアに語った。(14日、La Nation 紙)
- ・ 14日、新任の選挙評議会(委員長サッカ・ラフィア前内務・治安大臣)の委員らはタロン大統領の前で宣誓就任式を行った。タロン大統領は職務を全うするよう述べた。(15日、La Nation 紙)

【外政】

- ・ 1日、在ベナン中国大使館は、中国共産党結党100年記念日を迎え、ペン大使のインタビューを各紙で発表した。(1日、La Nation 紙)
- ・ 13日、ベナン政府と国連開発計画(UNDP)は「民主主義強化、法治国家、善良な統治」と題する会合を開催し、両者が進める事業のフォローアップを行った。(14日、La Nation 紙)
- ・ 15日、タロン大統領は、アビジャンで開催された国際開発協会の首脳会合に出席した。(16日、Le Matinal 紙)
- ・ 15日、在ベナン中国大使館は、中国共産党結党100周年記念に係る記者会見を開催し、ペン同国大使は中国の発展の秘訣について語った。(16日、La Nation 紙)
- ・ 22日、新任のルワンダ、南ア、ブラジル、教皇庁の駐ベナン大使がタロン大統領に信任状を奉呈した。(23日、La Nation 紙)

【治安・保健】

- ・ 8日、治安強化のため新規雇用され訓練を終えた600名の新警官の現場着任式がセイドウ内務・治安大臣の出席の下、開催された。(9日、La Nation 紙)
- ・ 16日、ウンパティン保健大臣は、献血キャンペーンの開始を宣言し、自らも献血した。(19日、L'Économiste 紙)
- ・ 26日、ベナン政府はジョンソン&ジョンソン製の新型コロナウイルスワクチン約30万回分を受領した。(27日、La Nation 紙)

【経済】

- ・ 経済・財務省により国家財政報告書が公表され、2021年第1四半期の国家歳入が、前年同期比で21%増加し、1兆3,500億 CFA フラン(約2,700億円)に達したことが明らかになった。(5日、La Nation 紙)
- ・ 経済・財務省の発表によれば、4月の売上高指数が前月比で1.8%、前年同期比で3.0%上昇し、電力、運輸、金融部門でも回復していることが明らかとなった。(6日、La Nation 紙)

- ・ 経済・財務省による2022～2024年経済・財政計画書が公表され、同期間における国家予算は平均9.7%の上昇が見込まれていることが明らかとなった。(7日、La Nation 紙)
- ・ 13日、草の根無償資金協力「グラスエ市井戸3基整備計画」の引渡式が実施され、近藤茂駐ベナン日本国臨時代理大使が出席した。(14日、L'Économiste 紙)
- ・ 15日、コトヌ自治港第5ターミナル建設計画に係る契約が、ティス同港総裁と中国港湾エンジニアリング会社との間で締結された。(21日、L'Économiste 紙)
- ・ 16日、セメ・ポジ市とソルボンヌ大学は、研究・教育・起業を通じたイノベーションに関するパートナーシップ協定を締結した。(21日、L'Économiste 紙)

【文化・その他】

- ・ 1日、中国の支援により改修された総合運動競技場「マシュー・ケレク・スタジアム」の完工・贈与式が、ペン駐ベナン中国大使、アベノンシ外務・協力大臣、ホメキ・スポーツ大臣、トナト生活環境・持続的開発大臣の出席の下、開催された。(2日、La Nation 紙)
- ・ 4日、中等・技術教育・職業訓練省は、中等教育修了資格(BEPC)取得試験の結果を公表した。ベナン全土の合格率は60.50%だった(昨年51.19%)。(5日、Le Matinal 紙)
- ・ 東京オリンピックへのベナン人選手の出場につき、4競技(陸上(7種競技、100m、800m)、柔道、水泳、ボート2名)7名が出場することが決定した(男子4名、女子3名)。(6日、La Nation 紙)
- ・ 10日、改修されたマシュー・ケレク・スタジアムにて、サッカーアフリカクラブ杯の決勝が開催された。国際大会の決勝戦がベナンで開催されるのは初めてであった。(12日、La Nation 紙)
- ・ 14日、6月に行われたバカロレア資格取得試験の結果が公表された。ベナン全土の合格率は64.42%で、過去最高の合格率を記録した。(15日、Le Matinal 紙)
- ・ 組織・人事コンサルティング会社マーサーは、世界の都市別生活費ランキングを発表し、コトヌ市はECOWAS 県内で6番目に高い都市に位置づけられた。(22日、L'Économiste 紙)
- ・ 22日、近藤茂駐ベナン日本国臨時代理大使は、東京パラリンピックに参加するベナン代表団の壮行会を開催した。(23日、L'Économiste 紙)
- ・ 25日、ロシーヌ・ソグロ元大統領夫人が87歳で亡くなった。(26日、La Nation 紙)
- ・ 30日、アトランティック県・リトラル県空手リーグの主催で、型と組手の県大会が開催された。勝者は8月20～21日に開催される全国大会に出場する。(30日、La Nation 紙)